

山口大学医学部附属病院から笑顔と情報を発信するコミュニケーションマガジン

山大病院だより

10²⁰¹⁴月号
vol.219



特集1 いよいよスタート!! 再開発整備事業



Your Health, Our Wish

—あなたのために—



新病棟完成予想図

特集2

高精度放射線治療
システムの導入について



新病棟完成位置図



いよいよスタート!!

再開発 整備事業計画

医学部附属病院 再開発整備事業スケジュール

- 2015年(平成27年) 新病棟建設開始
- 2018年(平成30年) 新病棟完成予定
- 2023年(平成35年) 既存建物の改修完了予定

特集1

再開発整備事業が、
いよいよ本格始動します。

本院では、平成21年から高度医療の提供や優れた医療人の育成などの地域医療に対する一層の貢献を目指して、病院整備計画を進めてきました。より具体的に、より加速的に計画を進めるため平成24年に「病院整備計画室」を設置、準備期間を経て基本計画を完成しました。本年度から国立大学病院としては「初」となる「2回目」の再整備を行う「トップランナー」として本格的に計画をスタートさせます。

山口大学医学部附属病院再整備計画の整備基本戦略では、「Your Health, Our Wish(あなたのために)」をスローガンに、「1」教育・研修戦略、「2」研究開発・先進医療戦略、「3」地域医療推進戦略、「4」病院基盤強化戦略を掲げて、整備をすすめていきます。

計画では平成30年に新病棟の整備が完成し、平成35年に既存建物の改修が完成予定です。新病棟建設、既存建物の再整備を行い、山口県唯一の特定機能病院として、急性期医療の充実や先進医療のさらなる充実を目指していきます。



Your Health, Our Wish

—あなたのために—

山口大学医学部附属病院の
整備基本戦略

Concept

1



教育・研修戦略

“医新前進”する医療プロフェッショナルを育成します。

- 発見し、育み、かたちにする「医新マインド(※1)」を有する国際基準の優れた技術と温かいホスピタリティを備えた人材を育成します。
- 分析力・課題解決力を涵養する技能教育設備や研修環境を整備し、魅力ある指導者を育成します。

※1 「医新マインド」とは、医療を取り巻く課題の解決に向けて、何事にもチャレンジして次代を切り拓くスピリット。

Concept

2



研究開発・先進医療戦略

アカデミズムあふれる風土のもと、世界に発信する先進医療の開発と実践を推進します。

- アカデミズムあふれる研究環境を整備して、トランスレーショナルリサーチを推進するための研究マインドを醸成します。
- 海外の臨床研究機関とのネットワークを強化するために、国際的な人事交流を活発化します。
- 信頼性確保に配慮した質の高い臨床研究を実施する研究支援体制を強化し、世界基準の新たな診断法や治療方法の開発を推進します。
- 先端医療機器の導入や優れた研究成果を積極的に取り入れた先進医療を提供します。

Concept

3



地域医療推進戦略

頼りになる“みんなの病院”を目指し、地域医療のリーダー(司令塔)となります。

- 山口県内における医療機関等との密接な連携を推進し、役割分担された「チーム山口(※2)」の司令塔を担います。
- 患者やその家族に最適な医療を提供するため、各医療機関の診療内容や電子カルテ等を共有するネットワークを構築します。
- 山口県における最後の砦として、救急医療、周産期医療、周術期医療及びがん医療等の更なる機能強化を図ります。

※2 「チーム山口」とは、山口県内の医療機関が積極的に病病連携や病診連携を推進し、明確に役割分担された県内医療機関で構成されたチーム。

Concept

4



病院基盤強化戦略

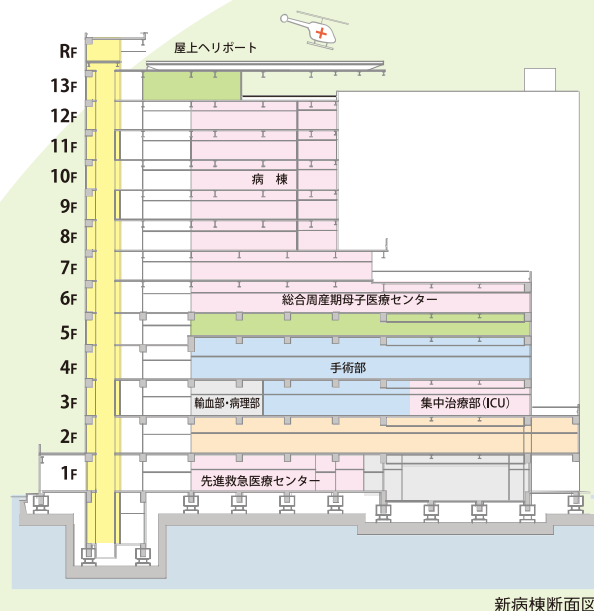
安心・安全で効率的な病院を目指します。

- 安定的経営基盤を維持し、常に質の高い医療を提供するために、効率的かつ革新的な人的・物的資源の投入を計画的におこないます。
- 院内に入退院センターを設置し、円滑な患者の受入・転院をマネジメントします。
- 大規模災害発生時においても、十分な医療提供体制を保持する安心・安全な病院を構築します。

患者(家族)・職員の満足度を向上します。

- からだに優しい治療を積極的におこない、患者QOL(生活の質)の向上を支援します。
- プライバシーを確保した病室や外来診察室等、患者やその家族が快適に過ごせる環境を整備します。
- 外来部門の機能的な配置や情報通信技術(ICT)の活用により、院内滞在時間の短縮化を図る等、患者やその家族の利便性を高めます。
- 「誰もが働いてみたい病院」を目指して、職員の業務効率性を重視し、快適かつ発展性のある職場環境を整備します。

新病棟の主な機能



- Rf** 屋上ヘリポート
山口県におけるドクターヘリ運用強化等のために屋上ヘリポートを設置する計画です。
- 12F** 病棟
精神科神経科・脳神経外科・放射線科・神経内科・呼吸器内科・眼科・麻酔科・小児科・第3内科
- 7F** 病棟
- 6F** 総合周産期母子医療センター
- 4F** 手術部
高機能手術室など(16室+将来2室)を整備する計画です。
- 3F** 集中治療部(ICU)
輸血部・病理部
- 1F** 先進救急医療センター





病院整備計画室の紹介

病院整備計画室は、新病棟の建設をはじめとする病院再開発整備事業が円滑にすすむよう日々取り組んでいます。

メンバーは、副病院長2名、病棟医長、外来医長各1名、副看護部長1名、施設環境部、経営管理課で構成しております。

毎月開催している病院整備計画室会議にて病院整備に関するあらゆる案件の検討をおこない、病院整備推進委員会へ提案しております。推進委員会での決定事項は、病院運営審議会へ報告し、また、全体説明会を開催して、職員へ周知しております。

8月末にはホームページを開設し、再開発整備事業について紹介しております。ブログのページでは工事の進捗状況等をお知らせしていきたいと思っておりますので是非ご覧ください。

工事期間中は、患者さん・職員の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。



Your Health, Our Wish

—あなたのために—

再開発整備事業を公開中! 是非ご覧ください。

再開発整備事業 特設サイト

<http://h-seibi.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>

地域医療 だより

高校生のための 医療現場体験セミナー

地域医療推進学講座 中村浩士

地域医療推進学講座では、医師を目指す山口県内の高校生を対象に、実際の医療現場の見学と体験、医学生や医療従事者との対話と交流を通じて、「医師の仕事や医療を理解し、医師になる意欲を育む」ことを目的に医療現場体験セミナーを毎年実施し、今年で4年目になります。これまで、岩国、防府、徳山、萩、長門、下関など山口県内一円の地域で開催しています。

今年はずでに、7月20日に山口県立総合医療センター、21日に徳山中央病院で実施し、2日間で総勢55名の現役高校生の参加がありました。さらに、10月26日には秋市民病院でもセミナーを開催する予定です。本セミナーを通して、地域医療に対する関心が少しでも高まることを期待しています。



恒例の病院見学で手術部を見学する高校生たち。

恒例の病院見学のほかに、体験実習では、1グループ5〜7名に分かれて、心肺蘇生法、胸部・腹部超音波検査、禁煙教育・呼吸、採血・縫合などの各ブースを回る本格的なセミナーです。



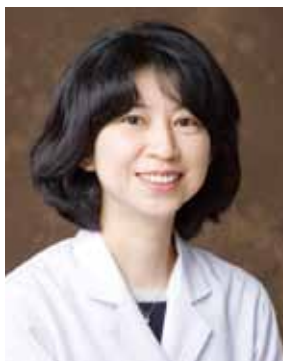
心肺蘇生の実習。現場の医師と学生が一緒になってインストラクターを務めました。



今年はずでに山口県立総合医療センターと徳山中央病院で実施。写真は、7月21日徳山中央病院にて。

特集2

世界初! いよいよ稼働開始 高精度動体追跡放射線治療システム



放射線治療は装置や治療技術の発展にともない高精度化が進んでいます。当院の放射線治療科・部では2005年から

高精度放射線治療IMRT(強度変調放射線治療)に取り組んでまいりました。この度、新たに最新の技術を取り入れた高精度放射線治療システムが導入されました。これは放射線治療装置Varian社製TrueBeamと動体追跡装置 鳥津メディカル社製SyncTraxにより構成された世界初の高精度動体追跡放射線治療システムです。この装置にはこれまでの当院の治療装置に比べて単位時間あたりに約10倍の放射線を照射する機能が備わっております。この機能を利用することで、放射線治療に要する時間が大幅に短縮され、患者さんへの負担を軽減することができます。また、2つの透視装置を組み合わせることで病変の立体的な動きをリアルタイムに監視することができる動体追跡機能を組み合わせています。病変の近傍に生体親和性の高い金マーカを挿入し、そのマーカの動きを監視しながら病変のみを狙って照射を実施することができます。呼吸にともなって動きを生じる病変を正確に狙い撃ちすることで、副作用を抑えながら安全に、しかも短時間に治療を実施することが

高精度放射線治療システムの導入について

放射線治療科・部長 澁谷 景子

でき、大きな治療効果が期待されます。

当放射線治療科・部では国内でも早くから高精度放射線治療に取り組んでまいりました。その実績と治療技術を持ち合わせております。また、専門的知識と技術を習得した放射線治療専門医、認定看護師、放射線治療専門放射線技師、医学物理士などのスタッフが協力してチーム医療を実践しております。新しい装置の導入にともない、その装置の機能や特長を十分に引き出すとともに、スタッフ一同が、患者さんに優しい安全で安心できる放射線治療を目指してまいります。



病棟リレー

各病棟を紹介します！

1 病棟 9 階 西

1 病棟 9 階西は、脳神経外科 27 床と神経内科 10 床による混合病棟で、32 名（平成 26 年 8 月現在）の看護師が働いています。

病棟では、脳血管障害など急激な変化に対応する急性期看護と、神経・筋疾患、脳腫瘍などの難病と言われる特定疾患など長期的なケアが必要な慢性期看護を行っています。そのため、多くの患者さんが生活のあらゆる場面で日常生活援助を必要としています。スタッフは常に余裕を持った対応を意識し、遠慮なくケアを受けられるよう笑顔を心がけています。



病棟では患者さんの体の機能の回復に向け、寝たきりにならないように、身体状態が落ち着いた段階で座ったり、立ったり、歩行訓練を行うよう取り組んでいます。笑顔で明るい看護師の声かけに、患者さんも自然と笑顔になり、互いに元気をもらっていることも多い病棟です。

また、医師とも定期的な合同カンファレンスや研究会を行い、合同旅行に行くなど、安全・安楽で効果的な医療を提供するための基本である医療従事者同士のコミュニケーションも大切にしている病棟でもあります。

摂食嚥下機能回復のサポートに力を入れています。

病棟の患者さんの多くが意識障害と嚥下障害があるため、栄養管理には特に気をつけています。口からの食事が摂れず栄養の吸収が困難になることは、脳神経領域において他の疾患以上に回復に向けての大きな障害となります。

そのため、看護師は、医師、ST（言語聴覚士）と協力しながら迅速なアプローチを行います。口からの食事が摂れない場合で



も、まず早期に経腸栄養を開始します。次に、嚥下機能回復訓練を医師の指示と ST の評価・指導のもと積極的にを行い、消化管からの栄養吸収に努めます。

摂食嚥下療法では、食事形態の選択、体位や食事方法の工夫をしながら栄養面の調整を行うだけでなく、患者さんがより安全においしく、楽しく食事することが出来る環境づくりを行うことが大切だと考えています。「おいしいですか？」「次何食べますか？」「よく嚥んでくださいね」など常に声かけをして一緒に食事をしている雰囲気、食べる楽しみを体感してもらっています。このように看護師たちは機能回復への取り組みに積極的で、様々な研修に参加するなどスキルの向上にも取り組んでいます。患者さんがさらに回復へ向かうことは看護師たちの大きな喜びです。



末重看護師長より一言

自ら訴えることができない患者さんの多い 1 病棟 9 階西では、患者さんを「しっかりみて何が起きているのかを知る」ということが特に必要です。私たちは日頃から、観察力を磨き、患者さんの「今」だけでなく、「過去と未来」にも目を向け、患者さんやその家族とのコミュニケーションを大切にして、危険の早期発見や QOL の向上を目指しています。



※QOL(クオリティ・オブ・ライフ)：生活の質

栄養治療部
季節のレシピ
recipe



Today's menu

けんちょう

大根も一年中出回るようになりましたが、冬場には大根が欠かせないということで、山口県民にはなじみ深い「けんちょう」を今回紹介します。

山口の郷土料理であり、県外ではなかなかお目にかかれませんが、地域によってしいたけや里芋・こんにゃくなどを入れたりしますが、ここではシンプルに「大根・人参・豆腐」で作ってみました。煮返すごとに美味しくなり、歯が悪くてもたっぷり野菜がとれますので、便秘予防にもなります。



材料 4~6人分

- 大根…………… 400g(葉:飾り用適量)
- 人参…………… 80g
- 木綿豆腐…………… 400g(1丁)
- 油(ごま油か菜種油)…………… 大さじ1
- 醤油…………… 大さじ2と1/2
- みりん…………… 大さじ1

作り方

- ① 大根(根)、人参はいちょう切りにし、大根(葉)は茹でて小口切り(飾り用)、豆腐は水切りしておく。
- ② 鍋に油をいれ熱し、水切りした豆腐を入れ、焦げ目がつくまでよく炒める。大根、人参を加え炒めたら、醤油を加えて味をつけてやわらかくなるまで煮る。
- ③ 器に盛り付け、小口切りにした大根葉をのせてできあがり。

大根の効用

大根にはアミラーゼ(消化酵素)が含まれており、胸焼けや胃もたれを防ぐと言われています。また、解毒作用のあるオキシターゼ(酵素)も含まれ、魚の焦げなどに含まれる発がん性物質を抑制すると言われています。まさに焼魚に大根おろしは最強の組み合わせといえます。(ただこの酵素は熱に弱いので、生で食べるのがオススメです)

●大根おろしのポイント

おろした先からビタミンCは壊れてしまうので食べる直前におろしましょう。

(葉)小松菜などに匹敵するほどカロテンやカルシウム、ビタミンCが豊富な緑黄色野菜です。カロテンは皮膚粘膜を強くし、抵抗力を高めるのに役立ちます。これは根の部分にはないので、葉も捨てずに活用しましょう!

小口切りにした大根葉とじゃこやこまを油を敷いたフライパンで炒め、醤油で味付けすると簡単ふりかけができます。大人味にしたい時は七味や山椒などを入れてください。



ふれあい看護体験を実施しました。



7月23日、近隣の高校生を対象にした「ふれあい看護体験」を実施しました。男子4名を含む18名が参加しました。

参加者は一般病棟13部署に分かれて、看護師と一緒に清拭や洗髪などの看護ケア、脈拍や血圧の測定、車椅子による移送を体験しました。

参加者からは「患者さんと初めて接した。自分以外の人のことをお世話するのは難しいと感じた」「憧れていた看護師さんの仕事に触れモチベーションが上がった」「してあげればかりではなく患者さんができることは自分でしてもらうことが大切だとわかった」などの声が聞かれました。



「ふれあい看護体験」は8月5日(14名参加)、6日(16名参加)にも実施しました。それぞれの夢に向かって頑張ってください!

「ふれあい看護体験」は8月5日(14名参加)、6日(16名参加)にも実施しました。それぞれの夢に向かって頑張ってください!

平成25年度 トランスレーショナルリサーチ成果報告会開催



9月24日、平成25年度トランスレーショナルリサーチ成果報告会を、総合研究棟1階S1講義室で行い、田口病院長、坂井田学部長及び学内教職員、大学院生等約50名が参加しました。

医療におけるトランスレーショナルリサーチ(TR)と

は、新しい医療を開発し、臨床の場で試用してその有効性と安全性を確認し、日常医療へ応用していくまでの一連の研究過程をさします。

本院のTR助成金は、世界に誇れる先進医療の開発を促進することを目的として、平成23年度より実施し、今回が第3回目の成果報告会となります。

当日は、平成25年度に採択された以下の6名の研究代表者がそれぞれの研究成果を発表しました。質疑応答では、活発な意見交換がなされ、今後の山口大学医学部の更なる発展が期待できる成果報告会となりました。

- 園田康平 教授(眼科学分野)
 - 田邊 剛 教授(環境統御健康医学分野)
 - 小林茂樹 講師(第二内科)
 - 濱野公一 教授(器官病態外科分野)
 - 清水文崇 助教(神経内科学分野)
 - 長谷川俊史 准教授(小児科学分野)
- 代理発表：西原秀昭 医師(神経内科) (発表順)

湯尻准教授が、Best Doctors in Japan 2014-2015に選出されました。

このたび、第三内科の湯尻俊昭准教授が、ベストドクターズ社より「Best Doctors in Japan 2014-2015」に選出されました。

ベストドクターズ社は、米国マサチューセッツ州ボストンに本社を置き、過去20年以上にわたり、各分野で優れた医師についての独自の調査を実施しています。

調査は、各医師に「もし自分や大切な人が、自分の専門分野の病気にかった際、自分以外の誰に治療を委ねるか」を尋ねる形式で行われ、調査結果から一定以上の評価を得た医師を名医(Best Doctors)に認定するというものです。



名医(Best Doctors)に認定された医師は、世界で5万3000名以上。450以上の専門・副専門分野に及ぶ医師が登録されており、日本では2014年7月現在約6100名が認定されています。



第3内科
湯尻俊昭准教授

平成26年度 動物慰霊祭



9月25日、生命科学実験施設前において動物慰霊祭を行いました。教職員及び学生等約200名が参列し、実験動物の御霊に感謝の意を捧げました。

はじめに坂井田医学系研究科長から、平成25年度に人類のため崇高なる犠牲となった動物の御霊に対して感謝の言葉が述べられました。続いて、動物使用者を代表して器官解剖学分野の大和田教授から慰霊の言葉が述べられた後、生命科学実験施設長代理坂井助教から平成25年度の研究の状況等について報告がありました。

また、生命科学実験施設を利用して行われた研究の中から、特に優秀な論文に対して、動物使用委員長賞が授与されました。最後に、参列者全員が献花を行い、慰霊祭を終了しました。

駐車場のお知らせ 外来ロタリーおよび第2駐車場の混雑緩和のため 第3駐車場および体育館裏駐車場の利用にご協力ください。



編集後記

気づけば今年も残り3ヶ月となりました。病院だよりの担当になり、さらに時が立つのが早く感じられます。次号は新年号の発行を予定しています。

皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております。今後読んでみたいテーマ、興味のある記事などお気軽にお寄せください。
FAX 0836-22-2113 E-mail me202@yamaguchi-u.ac.jp

企画発行：山大病院だより編集委員会
事務担当：山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号
TEL 0836-22-2007 URL <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>